

今村復興大臣岩手県訪問ぶら下がり会見録
(平成28年8月6日(土) 1600～1606 於) 岩手県大船渡市)

1. 質疑応答

(問) 今日、岩手県各地視察されましたが、今の御所感をお聞かせください。

(答) 端的に言うと、随分進んできたなという感じはしました。そして、皆さんが、あと一息だと。ピッチを上げてやっていこうという感じで、皆さん取り組んでおられるなという感じがいたしました。

そして、こちらも約2年前に、これは決算行政監視委員会でこちらにまいりましたけれども、当時は、大きなベルトコンベア等もあって、まだ大変な状況だったんですけれども、随分、形としてでき上がってきたと思います。

ただ、まだ造成の途中だから、人がいないですね。よそからバスなどで来ている人はいるけれども、だから1日も早くまちづくりをして、にぎわいを取り戻すということを実現できればなというふうに思った次第であります。

(問) そういった今日、お感じになった課題の部分について、今後、大臣としてどんなふうに取り組んでいきたいとお考えでしょうか。

(答) 今の仕組みで大体うまくいっているというのか、まだまだ大体うまくいっているけれども、もう少しこういうところをああしてほしい、こうしてほしいというようなお話もあるかと思いますので、そういったところは、てきぱきと現場第一主義ということで進めていきたいというふうに思っております。

(問) 陸前高田と大船渡、それぞれ回りましたが、何か印象的だったことはありますか。

(答) 祈りも捧げましたけれども、改めまして、こんな平和なところで、あんな悲惨なことが起きたんだということを痛感して、今、日本列島非常に、何といいますか、活動期に入って、どこでもこういうことが起きると。だから、この被災の経験をしっかり生かして、いろんな対策を練ることが、亡くなられた方に対しても、大きな手向けになるんじゃないかなという感じがしましたので、また気を引き締めていろんな防災対策、そしてまた、何よりも当地の復興、再生のために頑張っていかなければいけないという決意を新たにしたところであります。

(問) 仮設住宅がまだ学校の中にあったりですか、復興工事がなかなか進まなかったり、様々課題はあると思いますが、一番早く解決しなければと思われている課題というは何でしょうか。

(答) 今、言われたような意味で、まず住むところをしっかりとって、

安心を与える。そしてその先は、やはりなりわいの再生ということで、若い人たちもまた戻って来るという職場づくり、そういったことに、また重点を置いていきたいと思います。住宅だけつくっても、働き場がないと、やっぱり帰ってこられないわけだから、両方を並行して進めていきたいと思います。

(問) 先ほどの方の質問にもあったんですけれども、学校の校庭に仮設が残っているという現状なんですけれども、これ全国的に大きな今、問題になっていて、つまり震災後に入学した小学生1年生が、小学生6年生、卒業するまで、自分の学校の本当の校庭で走れずに卒業していくということになるんですね。そこら辺のことをどう受け止めていらっしゃるでしょうか。復興が今、進んできているというふうに先ほどおっしゃいましたけれども、どのようにお考えですか。

(答) これはもう緊急避難でやむを得なかったと思いますから、今そういった子供さんたちのことも考えて、1日も早くそういった校庭、子供たちの歓声が響く環境づくりに頑張っていかなければいけないというふうに思っております。

そして、そういった住宅も、もう少し隅のほうに寄せるとか、少しでもスペースをつくっていくようなことも、これはやろうと思えばできると思いますから、そういった地道な努力もしていきたいというふうに思います。

(問) 例えばつまり、学校の校庭の仮設を優先して集約化を進めるとか、そういうお考えはいかがですか。

(答) 集約って何を。

(問) 仮設住宅の集約化ですね。空室化が進んできているんですけれども、それで今集約化を図ろうという動きもあるんですけれども、自治体さんとかによっては。そこら辺のお考え、学校の校庭の仮設について、具体的にどのようにお考えですか。

(答) 今、私が言ったように、仮設住宅もう少しコンパクトにできるはずですから。あるいは今、言われたように、空いている部屋もあるし。それを少し校庭の隅のほうに持っていくとか、今言われたようなことと同じようなことを言ったつもりですけどもね。

(以 上)